

# 地域性系統を大切にしたフジブナ導入事例の報告

## ～地域性種苗の使用と市民参加による自然林再生の試み（２）～

中村華子

はじめに 非営利特定活動法人山の自然学クラブでは 2003 年 4 月から 5 年間、関東森林管理局静岡森林管理署と「山の自然学クラブ・富士山森の復元活動」という協定を締結、富士山国有林で森林復元活動を行っている。現地は富士南麓に位置し、標高 960-1,000m の富士山国有林 200 林班た小班（面積約 4.56ha）、1997 年に地元産種子から育苗した広葉樹を植栽、翌年ヒノキを補植している。《保育方針》当地での保育方針は次のように設定した。(1)植栽木の密度が高いところは植栽木の保育を優先 (2)植栽木の密度が低いところは地域性種苗の導入により広葉樹の密度を増やす

### 1. 植栽の概要

2003 年にブナが豊作年であったので種子を採取、苗を育成して 2005 年 4 月に一年生苗を植栽した。  
 使用種子：2003 年 10 月、場所を富士山南麓に限定し、参加したボランティアと一緒に採取  
 育苗：2004 年 4 月に播種、東京農業大学構内（東京都世田谷区）でポット内に育苗  
 植栽日：2005 年 4 月 24 日 一年生の苗木をボランティアの手で植栽  
 植栽方法：①4 本寄せ植え-23 箇所 ②10 本寄せ植え-3 箇所

### 2. フジブナの植栽結果

2005 年 5 月と 2006 年 5 月の 2 回、活着率と樹高を測定した（表 2, 3）。現地の自然になじみやすくという方針のもと、小さめの苗を導入したが、活着率は非常によく、葉の大きさや色も特に問題なく成長している。寄せ植えの本数による樹高成長の違いを測定しているが、まだ明確でない。

#### 【活着率と成長】

表 2：4 本寄せ植え区の活着率と成長

測定日	生存数	平均樹高	生存率
	本	cm	%
2005年5月	89	9.90	96.74
2006年5月	85	12.18	92.39

表 3：10 本寄せ植え区の活着率と成長

測定日	生存数	平均樹高	生存率
	本	cm	%
2005年5月	27	9.13	90.00
2006年5月	28	10.96	93.33

### 3. 種子採取

活動を始めてから毎年 10 月に種子採取活動を行い、植栽・播種用の種苗を自己調達している。

表 1：2005 年 10 月に採取した種子一覧

樹種名	重量(g)	粒数	備考	樹種名	重量(g)	粒数	備考
アサノハカエデ	470	19000		タンナサワフタギ	300	5000	精選後重量（水選）
イタヤカエデ	240	9500		ツリバナ	10	600	精選後重量（水選）
ウリハダカエデ	280	6000		ガマズミ	330	15000	精選後重量（水選）
オオモミジ	120	7300		ヤマボウシ	340	6500	精選後重量（水選）
ミズナラ	2800	1000	水選	クマシデ	140	38000	精選後重量（翼取）
コハウチワカエデ	80	2500		カマツカ	100	14000	精選後重量（水選）
チドリノキ	400	4500		ミツバウツギ	60	2000	精選後重量（殻取）

#### 補足

ブナの豊作年は、太平洋側では日本海側よりも間隔が長いと言われているが、地元の方によると富士山周辺のブナでは前回の"なり年"が平成 5 年だったそうで、2003 年は 10 年ぶりの"なり年"であった。今後、他樹種も合わせて豊凶のサイクルやフェノロジーの観察も合わせて行っていきたい。